

東海大学 ● ● ● ● チャレンジセンター



2014
Tokai University
Student Project Center



 東海大学チャレンジセンター

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1

MAIL challenge@tsc.u-tokai.ac.jp TEL 0463-50-2504(直) FAX 0463-50-2472

WEB <http://www.u-tokai.ac.jp/challenge/> [もしくは](#) 東海大学チャレンジセンター [検索](#)

チャレンジセンターは社会が求める4つの力を育む成長の場です。



自ら考える力

常に未来を見据え、自らが取り組むべき課題を探求する力。

学習力 ● 思考力 ● 探求力

集い力

多様な人々の力を結集する力。

コミュニケーション力 ● 関係構築力 ● アイデンティティ獲得

挑み力

困難かつ大きな課題に勇気を持って挑戦する力。

問題発見力 ● 構想力 ● プランニング力

成し遂げ力

失敗や挫折を乗り越えて目標を実現していく力。

工程管理力 ● 実行と継続力 ● 分析と修正力



今、社会では自らの手で未来を切り開くことができる人材が最も必要とされています。学部を越えて集まった仲間たちとひとつの目標に向かって挑むチャレンジセンターでの体験を通して、あなたの新しい可能性を広げましょう。

※「でかチャレ」とは、学生のでっかいチャレンジをサポートする、チャレンジセンターの愛称です。

チャレンジセンターはあなたの挑戦を応援します。

インターネットの普及によってグローバル化が進み、社会が変化するスピードが速まっています。このような社会で活動するには、専門知識だけでなく、「コミュニケーション」「関係構築」「リーダーシップ」「マネジメント」などのスキルを身に付けておく必要があります。さらに、未知なる問題の発見、答えのない課題の解決に向かう力も重要となるでしょう。東海大学チャレンジセンターは、大人数で行う「地域貢献」「国際交流」「ものづくり」などのプロジェクト活動にみなさんが参加し、本センターの科目を学ぶことで、社会が求める4つの力を身に付けるとともに、キャンパスライフを楽しく充実したものにします。

チャレンジセンター所長 **木村英樹**
(工学部電気電子工学科教授)





理論

自ら考える力
集い力 挑み力
成し遂げ力

実践

「自ら考える力・集い力・挑み力・成し遂げ力を身に付けることによって、建学の精神を培う」という教育理念のもとで、学部・学科単独ではできない、社会とのつながりの中で実践的な教育を行っています。

チャレンジセンターのプロジェクトでは、地域活性、国際交流、ものづくりなどの活動を、学部や学科、そして学年の枠を超えた学生たちが意見を出し合いながら、一緒に実践する中で成長していきます。

チャレンジセンター科目

プロジェクト活動



社会的実践力副専攻

目標を見つけ、計画を立て、実行する方法を体験的に学ぶための科目群(「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」「プロジェクト入門」「プロジェクト実践」など)を「社会的実践力副専攻」として開講して、社会に出て通用する実践力を身に付けます。

ジャーナリズム副専攻

より高度な実践力を身に付けるジャーナリズム実践教育のための科目群(「ジャーナリズム史」「メディア概論」「国際、政治、出版ジャーナリズム」など)を「ジャーナリズム副専攻」として開講しています。公共的な価値に基づいて「情報を選別し、多くの人々に提供する社会の基礎」を担う人材を育てます。



チャレンジプロジェクト

学部・学科を横断する50名以上のメンバー(校舎によっては30名以上)で構成。学生が自由な発想で企画立案したプロジェクト活動です。



ユニークプロジェクト

10名以上のメンバーで構成され、ユニークな企画内容を実施する計画を立て、多様な人々や組織との関係の中で、自分たちにとって独自の学ぶ価値を見出そうとする試みです。さらに、チャレンジプロジェクトへの発展が期待されます。



様々な分野での活動

プロジェクト活動では、地域活性、国際交流、ものづくり、社会貢献、環境・農業・動植物保護といったテーマのもとに、自らの力でプロジェクトを立ち上げ、多様な学生が集い、困難な課題に立ち向かい、共通の目的を達成するための活動を日々行っています。プロジェクト活動を続けていく中で、今、社会が最も必要としている社会的実践力を身に付けることができるのです。

社会的実践力副専攻



総合大学としての多様性を活かし、社会で通用する実践力を養います

「気づき」を促す様々な演習を組み込んだ新しい授業として、学生が楽しみながら勉強できるように構成されています。授業を通して一般の科目やプロジェクト活動へのアプローチ方法を身に付けるとともに、自身がぶつかる様々な問題の解決方法を身に付けていきます。

集い力

入門

自己理解からはじめる「集い力」

「自己の特徴を知る」、「他者と関係を築く」、「コミュニケーションを改善する」の3つについて学びます。

演習A

調査の基礎

自己紹介資料を作成・発表。そして異文化に関する調査テーマ・項目を決定し、調査、データ集計、報告を行います。

演習B

ビデオ制作

各グループワークとして設定したテーマに従って、静止画を使ったビデオ作品を制作。クラス内で発表します。

プロジェクト入門

入門A

楽しい科学教材の開発

パソコンと基本的なソフトウェアを利用して、わかりやすい理科教材をグループで制作。模擬授業にて発表します。

入門B

ウォーキングを題材にした地域調査

実測データを用いて地域調査を行い、その結果を基に、各自がウォーキングコースを1つ提案します。

入門C

3Dテレビについて調べよう

3Dテレビにはどんな技術が使われているのでしょうか？グループに分かれて調べ、まとめ、発表を行います。

挑み力

入門

クリティカルシンキングを身に付けよう

どのような問題に取り組む際にも、有効な考え方がクリティカルシンキングです。常に疑問を持ち、分析的に考える思考について学習していきます。

演習A

チーム活動の中で課題設定力、行動計画策定能力を習得する

講義とグループ演習を組み合わせることで、体験的に学習していきます。

演習B

限界を超える力を身に付けよう!

「東海大学検定を作ろう」、「ギネス記録に挑戦」、2つの演習を用い、挑戦するプロセスから学びます。

成し遂げ力

入門

セルフマネジメントによって成し遂げ力について考える

講義やゲストスピーカーの話を通して、セルフマネジメントの理論を理解し、実践できるようにします。

演習A

リーダーシップ開発

チームや組織が協働学習の中で、目標を成し遂げていくためのリーダーシップのあり方などを学んでいきます。

演習B

自分たちの活動を伝える展示の企画・計画・デザイン

基本的知識や技術を習得し、展示会の企画から、計画、デザインまでを行います。

プロジェクト実践

実践A・B

ライトパワープロジェクトの例では、電気自動車の基礎知識を身に付けることを目標としています。工学的な知識以外にもコミュニケーション能力や表現能力を、講義と演習を通じて身に付けます。

実践C・D

サイエンスコミュニケーターの例では、自然科学について子どもたちや一般の人たちに分かりやすく、楽しく教えることができる、科学の基礎知識を身に付けることを目標としています。

※2014年度の開講科目例

ジャーナリズム副専攻



ジャーナリストになる夢を応援

読売新聞東京本社との教育研究協定に基づき、東海大学の知的資源と、読売グループのメディア資源を結合して、「常に社会とつながっている、大学内で行われるジャーナリズム教育」を実現することを目的とする科目です。授業では、読売新聞東京本社のベテラン記者らが、新聞社、通信社、放送局などのジャーナリストを目指す学生のために、取材の方法から記事の書き方まで具体的に指導します。

基礎となる知識科目

メディア概論

ジャーナリズム史

マスコミ倫理

一例

- 「メディアとは何か」「ジャーナリズムのあり方」を考えるための歴史的・理論的知識を習得
- ニュース報道する際の基本的なルール、法的な背景についての知識を習得

社会の動きをつかむ科目

専門分野

(政治/経済/科学・医療/環境/文化・出版/ウェブ/スポーツ)

国際ジャーナリズムA/B

時事問題研究A/B

一例

- 政治、経済、社会などの各分野におけるジャーナリズムの関わりを認識
- アメリカ、中国など世界の動きを客観的に把握

取材して伝える科目

論文作法A/B

時事英語演習A/B

報道写真演習

ジャーナリズム演習A/B

ジャーナリズム・ゼミナールA/B

一例

- 報道原稿のスタイルで文章を作成
- 企画報道の作業手順を習得
- 英文ニュース読解
- ジャーナリズムにおける写真報道の意義を理解

教員紹介



崔 一英 教授 [社会的実践力]



岡田 工 教授 [社会的実践力]



園田 由紀子 講師 [社会的実践力]



掘本 麻由子 講師 [社会的実践力]



青木 孝子 講師 [社会的実践力]



田島 祥 講師 [社会的実践力]



岩田 伊津樹 教授 [ジャーナリズム]



山口 勉 教授 [ジャーナリズム]

副専攻

大学が指定する授業科目群の中から20単位を修得した場合、これを「副専攻」と称し、当該副専攻を修了したことを認定します。副専攻には、学部・学科などの単位で認定されるものと学部・学科などが協力して学際的(横断的)に設定するものの2種類があります。

■チャレンジプロジェクト

総合大学の特色を生かした多様な学生が集結。切磋琢磨しながら、目標達成に取り組んでいます。

地域活性

大学と地域との関係を、より身近なものに

湘南 キャンパスストリートプロジェクト

この街を、
もっと自慢できる街に

湘南校舎周辺の地域活性化を目指し、地域と協働したイベントを運営・実施。さらには、障害者自立支援としてパン販売を行います。



高輪 Takanawa共育プロジェクト

高輪地域の活性化を目指して

高輪地区で開かれるイベントとの連携や清掃活動を通して地域との交流を深め、開かれたキャンパスづくりを目指します。



熊本 熊本地域プロデュースプロジェクト

熊本地域の魅力を発見・発信

「観光」「農業」「スポーツ」をキーワードに、地域の様々なコミュニティと交流しながら、地域のブランド化・活性化を目指しています。



湘南 DANDANDANCE AND SPORTS プロジェクト

パフォーマンスや身体表現を通じて地域と交流

DANCEを通じて地域の方々と交流するイベントの企画を行い、毎年2月には市民参加型の大規模公演を学生の力で運営しています。



国際交流

世界との交流を深める、様々な機会づくりを

湘南 Beijo Me Liga

外国人の子どもたちと文化交流

異文化間の相互理解を目的としたマルチカルチャー・キャンプの開催や、ブラジル人学校での交流を行います。



湘南 Tokai International Communication Club

留学生や外国人児童を支援

本学にいる留学生や地域の外国人への支援活動を通し、国籍や文化にとらわれずに互いを尊重できるような多文化共生社会を実現します。



ものづくり

自由な発想で、優れた“もの”をつくり上げる

湘南 東海大学学生 ロケットプロジェクト

ハイブリッドロケットを研究開発

ロケットの設計・製作、搭載計器の動作試験、実験から得られたデータ解析など、すべて学生の手で実施。マネージメントや広報活動などにも力を入れています。



熊本 メカトロマイスター

メカトロニクスを中心とするものづくり

人の立ち入ることのできない現場を想定した救助ロボットの開発、エネルギー問題をテーマにしたソーラーカープロジェクトの2つを立ち上げて活動しています。



湘南 Tokai Formula Club

フォーミュラカーを設計・製作

ゼロからフォーミュラカーを設計・製作し、全日本学生フォーミュラ大会に参戦。総合優勝を目指します。また走行会を通してフォーミュラマシンの魅力を発信しています。



湘南 ライトパワープロジェクト

究極の省エネルギー技術を実現

ソーラーカー・人力飛行機・電気自動車の3部門のチームによって構成されています。ものづくりの楽しさや知識・技術を、国内外の大会や、社会貢献活動を通じて学んでいます。



熊本 先端技術コミュニティ ACOT

ソフト・ハードウェアの先端技術を学ぶ

ETロボコンでの優勝を目標にプログラミング技術の向上などを旨とするほか、水耕栽培によるグリーンカーテンプロジェクトにも着手しています。



社会貢献

地域に根ざした、継続的な取り組み

湘南 サイエンスコミュニケーター

科学の楽しさや魅力を伝える

学生の立場から、子どもたちの理科離れを防ぎ、多くの人に科学の楽しさや魅力を伝えることを目的として活動を行っています。



湘南 スポーツ社会貢献プロジェクト

スポーツを通じて笑顔と感動を

地域の人のために、子どもたちのために、高齢者のために、時には大学生のために、さまざまな活動を企画し、実施しています。



札幌 福祉除雪プロジェクト

年間を通してボランティア活動を実施

冬季は除雪や屋根の雪下ろし、夏季は庭の除草作業や引越し作業の手伝いなど、年間を通して高齢者世帯を対象にボランティア活動を行っています。



湘南 Music Art Project

学生の手だけでオペラ公演を実現

作曲や脚本などを学生が手がける自主創作オペラ公演をはじめ、季節に合わせたコンサートを実施しています。



湘南 3.11生活復興支援プロジェクト

被災地の「持続可能な復興」を支援

東日本大震災で被災した地域に対して「持続可能な復興支援」を目標に、専門知識や研究を活かし、より良い方向性を提言・提案・実践していきます。



湘南 病院ボランティアプロジェクト

病院と、社会との関係を考える

病棟ボランティアをはじめ、院内コンサートや市民のための医療セミナー開催など、社会と病院を繋ぐ企画を実施しています。



環境・農業・動植物保護

現状・実態を学び、活動を通じて発信・啓発

湘南 環境キャラバン隊

テーマは「身近にできるエコ」

地域の小学生を対象に環境教室を実施。また、地域が企画する環境啓発イベントやコンテストにも参加しています。



阿蘇 阿蘇援農コミュニティプロジェクト

農業の実態を学び、発展を考える

地域農家の技術や知識を学ぶとともに、農家が抱える人手不足などの課題解決を図ります。



阿蘇 湘南 阿蘇は箱舟プロジェクト

希少野生生物保護の最前線

希少野生生物の保護に有効な生息地管理と、阿蘇地域の希少な野生生物の画像、音声のデータベースを作ることを目的としています。



阿蘇 あにまるれすきゅープロジェクト

動物の命を救いたい

保健所などで殺処分されてしまう犬・猫たちを一匹でも多く救うため、動物愛護の啓発活動や迷子札の普及を行っています。



ユニークプロジェクト 10名以上のグループによりユニークな企画内容を実行するプロジェクトです。

湘南 エコ-コンクリートカヌープロジェクト2014

コンクリートでカヌーを作製し全国大会二連覇を目指す。

湘南 きらきら実験教室

児童や生徒を対象に、理科に興味・関心を引き出すことを目標に工作教室などを企画・実施する。

湘南 Same Same but TOKAI

駅前の募金活動や長期休暇を利用した海外住居建築活動を行う。

湘南 TOKAI DESIGN PROJECT

東京デザイナーズウィーク出展やアートを通じ周辺地域と連携したイベントを行う。

湘南 HRE-Airplaneプロジェクト

水素ローターエンジンを搭載したラジコン飛行機を製作し、RC航空ページェント出場を目指す。

湘南 学生航空機プロジェクト

RC飛行機の設計・製作を行い、全日本学生室内飛行ロボットコンテストに出場し上位入賞を目指す。

湘南 Fabsatプロジェクト

簡易に作成できる衛星の開発。Webを通じた成果の公開をし、中高生を対象としたイベントなども行う。

湘南 International Cultural Properties Project

本学が所有する文化財を調査・記録・修復・保存し、学外の博物館で広く公開する。

湘南 しるしプロジェクト

育児知識やコミュニティの不足による孤獨育児の問題意識を改善し、学生が子育てについて考える機会を増やす。

湘南 たすけあいプロジェクト

被災地に関するボランティアの情報発信や楽器・平塚市内の小中学校などで自然災害に備える啓発活動を行う。

湘南 International Cultural Exchange Events

楽器演奏などの特技を持つ学生が国籍や学部・学年を問わず集い、留学生と国際交流の機会を提供する。

代々木 よよさんぽ

宮城県大川町や代々木校舎周辺の魅力を発見するための情報発信やイベント企画を行う。

高輪 ロボP

ETロボコンへの出場及びSPPI(サイエンス・パートナーシッププロジェクト)に参加し、ものづくりの楽しさを伝える。

高輪 情報通信研究プロジェクト

地域貢献をテーマとしたアプリケーション開発を通して情報システムの開発を学び、コンテストにも出場する。

清水 ワンダフル・マリナニマルズ

魚型水中ロボットや生物ロボットを用いて、地域イベントなどに参加し、市民との交流を図る。

清水 三保活性化プロジェクト

静岡県清水区での地域活性化を目的とし、三保半島を中心に地域交流などを行う。

清水 海の森プロジェクト

コンブやワカメの収穫・加工を通して、地域の方々と親睦を深める。

清水 夢工房

身近な「科学」に触れる機会を提供し、地元の子どものための理科に対する感性を豊かにする。

清水 Tour〜三保と世界をつなぐ旅〜

国際交流に興味のある日本人へ国際交流ツアーを企画し「生きた英語」を学ぶ機会を提供する。

清水 サンゴを守るプロジェクト

造礁性サンゴの種類数を調査し、北限域のサンゴの産卵の確認と保護を行う。

清水 湘南 Tokai Kesenuma Shark Project

気仙沼のサメに商品として付加価値を付け、現地の方々の生活再建を支援する。

熊本 肥後のたまもの

熊本のアグリビジネスに貢献するイベントに参加し、肥後農産物の販売などを通して第六次産業の発展を目指す。

熊本 "sync"スポーツ

スポーツでの交流を通じて参加者の生活を豊かで生き生きとしたものにする。

熊本 STYLE

若者を対象にフリーペーパーを作成し、熊本市民の生き方を伝える。

熊本 阿蘇 水資源調査プロジェクト

熊本、阿蘇校舎の学生がチームとなり白川の水資源を調査し水環境についての理解を深める。

阿蘇 Unique Endless Lifeプロジェクト

阿蘇地域で収穫された農産物を加工し、新商品開発・販売(六次産業化)へとつなげる。

阿蘇 日本農機具遺産プロジェクト

阿蘇地域で使用していた古い農機具のデータベース化を行い、農業の歴史認識を分かりやすく伝える。

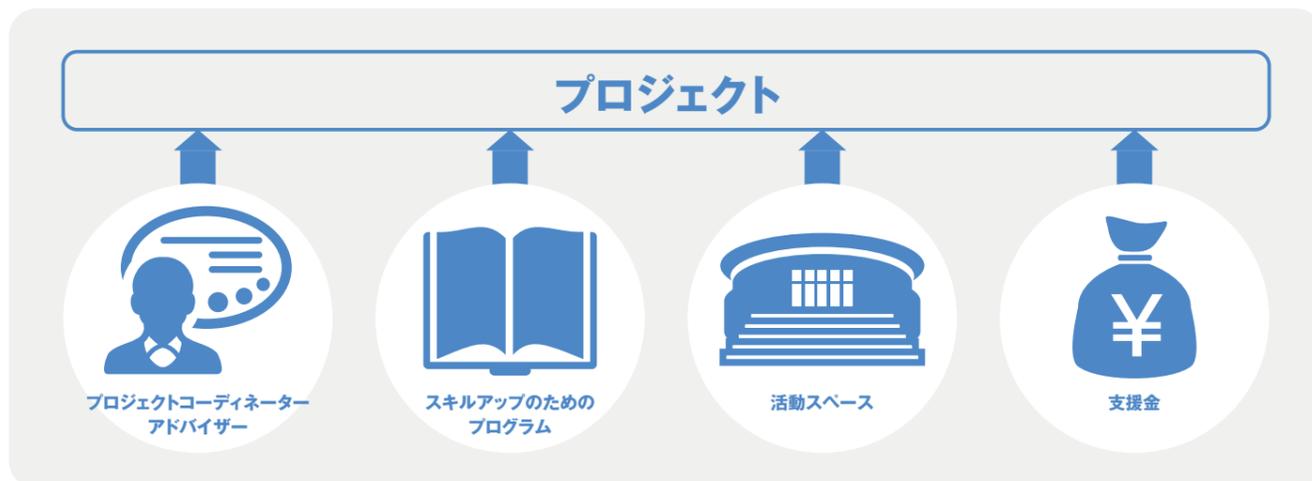
札幌 地域連携プロジェクト

まちづくりやデザインという観点より様々な方法・媒体を用い地域にアプローチする。

プロジェクト支援

チャレンジセンターは、あなたの成長を全面的にサポートします

プロジェクトの質を高め、より大きな目標を成し遂げられるように、
人・施設・資金など様々な面できめ細かくプロジェクト活動をサポートする体制を整えています。



プロジェクトコーディネーター・アドバイザー

プロジェクトコーディネーター

学生のプロジェクト活動を支援するための研修を受けた職員が担当します。主な役割としては、プロジェクト全体の進行状況を把握しながら活動全般の相談役を担い、学生のモチベーションを高め、企画書の作成指導や会議が円滑に進むための助言を行います。

プロジェクトアドバイザー

専門的知識またはスキルを持った教員が担当します。主な役割としてはより質の高いチャレンジとするため、プロジェクト活動に対して有識者としての豊富な知識と経験に裏付けられた指導・助言を行います。



学生運営スタッフ

学生の視点から運営改善に向けた提案を行い、チャレンジセンター職員とともにプロジェクト運営・サポートを行います。



スキルアップのためのプログラム

イベントにおける 企画立案・工程管理・課題の解決

イベントを開催する場合、まず企画立案をする段階で活動の目的を確認しつつ、何が必要かを確認しながら工程表を作成します。その中で直面する課題を解決しながら工程を進めることで企画が成し遂げられます。



振り返りの実施

各企画終了後に省察会を開催し、プロジェクトが設定した「学びのテーマ」について、活動が実施できたかを振り返ります。



活動スペース

プロジェクト活動のスペースとしてミーティングルーム、会議室、ものづくり館などがあります。



リーダー研修

プロジェクトのリーダー、サブリーダーなどの幹部を対象としたもので、校舎を超えた学生同士の交流やプロジェクトリーダーの育成を通じて、各プロジェクトのノウハウや課題を共有化し、活動の活性化を図ることを目的としています。



プロジェクト協議会

プロジェクト活動を円滑に推進するため、プロジェクト間の情報交換、本センターからの連絡事項の伝達を行う場として、プロジェクトリーダーが出席し、月一回開催。各校舎をTV会議システムで接続して行います。



技術講習

「機械加工」「電気工作」の2種類について主に講習を行い、使用する工作機械の操作をはじめとして、設計、材料の選択、加工方法の相談にも応じるなど、受講学生のニーズに応じて専任の技術職員がきめ細かく指導しています。



プロジェクト報告会

中間報告会・最終報告会の年2回、全チャレンジプロジェクトメンバーが参加し、活動の成果や課題となった点、今後の展望などを発表します。また、最終報告会では企業の方から講評をいただきます。



チャレンジセミナー

学外より社会で活躍する方々を招いて、「目標の実現に向けてあきらめずに挑戦することの大切さ」や「チームとして力が発揮できるプロジェクトマネジメント」などをテーマとし、4つの力を身に付けるための講演を行います。



支援金

企画の内容・規模・過去の実績などに応じて、活動に必要な資金の一部を支援します。

【チャレンジプロジェクト】
支援金上限: 200万円
【ユニークプロジェクト】
支援金上限: 50万円

※特別申請により、企画に応じて最大1,000万円

プロジェクト学生の1年



サイエンスコミュニケーター
プロジェクトリーダー
高瀬 早桐さん
工学部材料科学科 3年次生

サイエンスコミュニケーターが提供する「理科」は普通の授業とは異なり、科学の楽しさや不思議さを分かち合い、そこから生まれる人と人との繋がりを大切にすることです。これからの科学の楽しさを伝えるために日々邁進していきます！



[4月]メンバー募集
新入生にプロジェクトに参加してもらうため、一生懸命プロジェクトの魅力を伝えます。



チャレンジセンター科目受講
春学期：4月上旬～7月下旬 秋学期：9月下旬～1月下旬



[5月]子ども科学館フェスティバル
『食』をテーマに企画を実施。科学の大切さを伝えるイベントへ積極的に参加し、企画立案を行っています。



[10月]中間報告会
チャレンジプロジェクト全メンバーが参加して、前期の活動を通して何を学んだかを発表します。



[11月]チャレンジセンターセミナー



[11月]環境教室



[3月]修了認定授与
チャレンジセンターが定めた要件を満たし、プロジェクトコーディネーターより1年間の活躍が評価されたメンバーに修了認定書が授与されます。



[2月]最終報告会
中間報告会に続きチャレンジプロジェクト全メンバーが参加し、1年間の活動を通してどのように成長したかを発表し、学外の方々から講評いただきます。

[2月]リーダー研修

[12月]クリスマスU-night
地域活性を目的に駅前広場にて市民の方々とスノードーム作りを実施。

1月*

[2月]リーダー研修

2月

3月

* プロジェクト協議会

卒業生・現役学生からのメッセージ

自ら考える力・集い力・挑み力・成し遂げ力を磨き、身に付け、活躍している先輩たち

目標を達成することを通じて、
一生の宝物となるような
仲間や経験を得ることができました。

飛行機製作における材料調達では企業との連絡を密にすることによって社会とのつながりを持って、スケジュール管理の重要性を学びました。また、鳥人間交流会では450名に及ぶ参加者を取りまとめたことによりマネジメント能力が身に付きました。
目標に向かって共に活動した大切な仲間と製作した人力飛行機が宙に舞った時には、大きな感動が得られ、大学を卒業して改めて思い返してみても、プロジェクト活動に熱中したことで学生生活が充実していたと胸を張って言えます。



ライトパワープロジェクト OB
飯沼 健太郎さん
工学部 航空宇宙学科
航空宇宙学専攻 2012年度卒業
東京急行電鉄株式会社 勤務

多くの仲間や高齢者の方との
出会い、他ではできない経験は、
自分の大きな糧になっています。

屋根の雪下ろし作業や氷割りなど、初めての体験ばかりでしたが、先輩に作業方法を教えてもらいながら楽しく活動できました。除雪活動後に地域の方から“ありがとう”の一言をいただき、嬉しい気持ちと同時に達成感を味わうことができました。シーズン外にも様々な活動に参加させていただき、多くの人に出会うことによって、社会に出て恥ずかしくない挨拶やマナーを身に付けることができ、コミュニケーション能力の向上にもつながりました。チャレンジセンターの活動には授業では学べない体験や経験がたくさん詰まっています。



福祉除雪プロジェクト OG
熊田 なつ美さん
生物理工学部(現:生物学部)
生体機能科学科 2012年度卒業
防衛省(陸上自衛隊) 勤務

現役学生

常にチャレンジ精神を持って、
自分の発言が通る喜びや
企画遂行の達成感を楽しんでいます。



病院ボランティアプロジェクト
鶴田 満里乃さん
教養学部 人間環境学科
社会環境課程 3年次生



平成25年度
学生ボランティア団体表彰式
学生ビジネスプランコンテスト



Takanawa 共有プロジェクト
鈴木 琢也さん
情報通信学部
通信ネットワーク工学科 3年次生



自分が興味を持った様々な
活動に積極的に取り組んでみることで、
自分がやりたいことが明確になりました。

プロジェクト活動を通し今まで体験したことのない大きな企画に挑戦しコミュニケーションの大切さを感じ、自分自身で思い込んでいた限界を超えられました。また、プロジェクトリーダーという役職を経験し、その責任に応えられるよう行動したことでプロジェクトの楽しさをより実感しました。さらには、様々な所属や年齢層の方々との交流を通じ、異なった考えに触れる機会を得ることができ、自分の視野が広がったと感じています。